



株主通信

2019年度中間報告書

2019年4月1日から2019年9月30日まで

CONTENTS

トップメッセージ	1
NSKグループ SDGsへの取り組み	4
NSK at a glance 一目でわかる決算情報	5
NSKを訪ねて	7
株主ひろば	8
連結財務諸表(要旨)	9
会社情報／株式情報	10



社会の発展とNSKの成長を同じベクトルに
位置づけ、全てのステークホルダーの皆様との
協創による「価値」の提供を続けていきます。

株主の皆様におかれましては、一層のご指導、
ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

取締役 代表執行役社長・CEO 内山 俊弘

2026年におけるNSKの目指す姿へ

当社グループは、2016年に迎えた創立100周年を機に、10年後を見据えた長期の経営指針として「NSKビジョン2026」を策定しました。第6次中期経営計画では、2026年の目指す姿として「持続的成長を可能にする企業基盤を確立し、MOTION & CONTROL™の進化を通じた価値の提供」を続けることを目標

とし、「ESG経営」、「事業の成長と収益力」、「強靱な経営資源の活用」の3つの経営課題に取り組むこととしました。

「次の100年に向けた進化のスタート」をテーマに掲げた第5次中期経営計画(2016年度～2018年度)では、事業環境の変化に対応しつつ、収益基盤の再構築を図り、新製品・新領域の開発を順調に進めました。しかしながら、最終年度の2018年度は、期後半から米中貿易摩擦による影響が顕著となり、産業機械事



業および自動車事業を取り巻く環境が悪化したことから、売上高・利益とも減少し、目標未達となりました。

第6次中期経営計画を着実に遂行

第5次中期経営計画の成果と反省を踏まえ、当期より始動した第6次中期経営計画(2019年度～2021年度)は、次の成長に向けて事業基盤とリソース(人・技術・組織・情報)を強化する3年間と位置づけ、「オペレーショナル・エクセレンス(競争力の不中断の追求)」と「イノベーションへのチャレンジ(あたらしい価値の創造)」の2つの方針を継続して柱に据えて、「成長への新たな仕掛け」、「経営資源の強化」、「環境・社会への貢献」の3つを着実に遂行していきます。

<3つの取り組み>

1. 成長への新たな仕掛け

将来社会のニーズに対する価値提供を通じた成長

1. 電動化、自動化、環境、IoTの成長セグメントでNSKコア製品を拡大
2. 成長セグメントでの新製品の市場化による成長

3. EPSビジネスの製品ラインナップ充実と再成長
4. M&Aやアライアンスの活用

2. 経営資源の強化

1. ヒトづくりの進化
2. モノづくりの進化
3. 技術開発の進化
4. デジタル技術の活用

3. 環境・社会への貢献

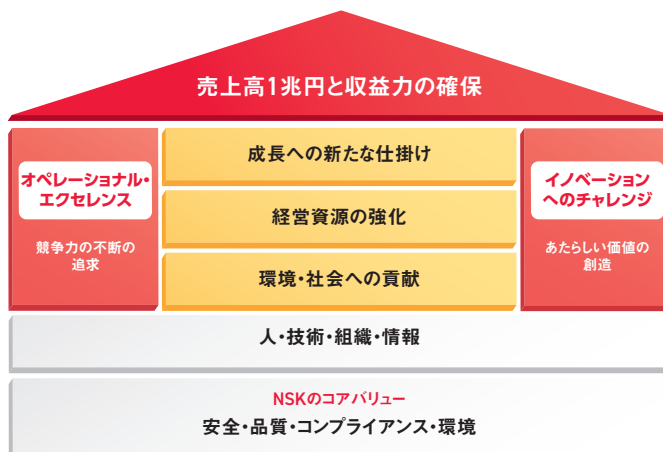
経営資源の強化とNSKコアバリュー+コーポレートガバナンスを通じた、環境・社会課題への取り組み

<経営目標>

近年、当社グループを取り巻く事業環境は不確実・不安定な要素がますます大きくなっており、そのため第6次中期経営計画では、売上高や利益額の絶対値による数値目標を設定していません。当社グループが変化に対応しつつ市場における地位と収益力を高め、市場の伸びを上回る成長率を目指すことを重視しています。そして、2026年とその先の未来も成長し続けるための仕組みを構築していきます。同時に「環境」「ダイバーシティ&インクルージョン」などの非財務的な課題にかかわる目標を定め、その取り組みを加速します。

第6次中期経営計画(2019年度～2021年度)

次の成長に向けた事業基盤とリソース強化



経営目標

財務目標		
売上高/成長率	売上成長 2%/年	産業機械：市場の伸びを上回る成長 自動車軸受：グローバル自動車生産台数の伸びを上回る成長 自動車部品：ステアリングビジネス再成長に向けた受注獲得
営業利益率	8%以上	安定的な収益力の確保
ROE	10%以上	株主資本コストを上回るROE
ネットD/E/対自己資本比率	0.3倍 50%	格付Aを維持
配当性向 自己株式取得	配当性向 30～50% 年間配当 40円/株以上	安定的な配当継続 自己株式取得 機動的な資本政策
設備投資額 (3年合計)	1,800億円	持続的成長を支える投資
技術関連投資	対売上高 3～4%	成長のための技術開発を継続
非財務目標		
CO ₂ 排出量	7%削減 (グローバル)	事業活動による温室効果ガス排出量を削減
女性活躍支援	管理職および管理職候補者層における女性比率1.6倍	

成長投資を実施しつつ、株主還元を拡充

当社グループは、安定した財務体質を維持した上で、持続的成長に必要な投資を積極的に実施し、なおかつ株主の皆様への利益還元を拡充していきます。第6次中期経営計画においては、「ネットD/Eレシオ0.3倍程度」および「自己資本比率50%程度」を処に財務基盤の安定を図り、3年間で1,800億円の成長投資を行い、株主資本コストを上回る「ROE10%以上」の資本効率性を追求します。これらを前提として、株主の皆様への利益還元については、「配当性向30~50%」「年間配当金1株当たり40円以上」を目標としています。また、機動的な資本政策をするため自己株式の取得も選択肢に加え、3年間の目安として「総還元性向50%」を目指します。

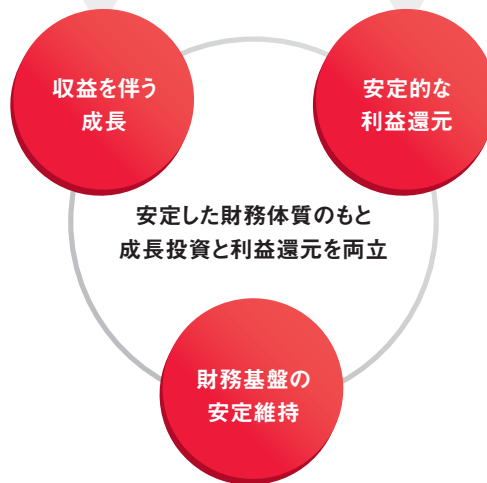
以上の方針にもとづき、今回の中間配当は期初の予定通り1株当たり20円とさせていただきます。期末配当についても同20円を予定しており、年間配当額は同40円となる見込みです。

2026年とその先の成長を確実なものとするために、当社グループは今後、電動化・自動化・環境・IoTなどの分野に狙いを定め、基盤技術である「4コアテクノロジー」と生産技術、デジタル技術の融合を図ることで、さらなる進化を遂げていきます。そして、社外の技術も積極的に活用し、新製品・新領域においてあたらしい価値を創造する取り組みを進めていきます。

株主の皆様におかれましては、企業価値の拡大とともに、社会課題の解決や持続可能社会の実現に貢献していく当社グループの今後にご期待いただき、長期的なご支援を賜りますようお願い申し上げます。

- ROE 10%以上
株主資本コストを上回る
資本効率性の追求

- 配当性向 30~50%
40円/株以上(第6次中計期間)
- 自己株式取得 機動的な資本政策
総還元性向(3年間)50%目安



安定した財務体質のもと
成長投資と利益還元を両立

財務基盤の
安定維持

- ネットD/Eレシオ 0.3倍程度
- 自己資本比率 50%程度

成長を支えシクリカル(景気変動)の影響にも耐え得る
財務基盤(格付A)を維持

● 中間配当について

当期の中間配当金は下記のとおりです。

1. 中間配当金 **1株につき20円**
2. 中間配当の効力発生日 **2019年12月2日(月)**
並びに支払開始日

SDGs宣言

NSKは企業理念のもと、持続可能な社会の実現に向けて、
誠実で責任ある事業活動と製品・サービスのイノベーションを通じ、
社会課題の解決を目指していきます。

そのための指針としてSDGsの17目標すべてを尊重するとともに、
当社の事業に関連した7つの目標を重要課題として選定し、
積極的に取り組みを進めていきます。

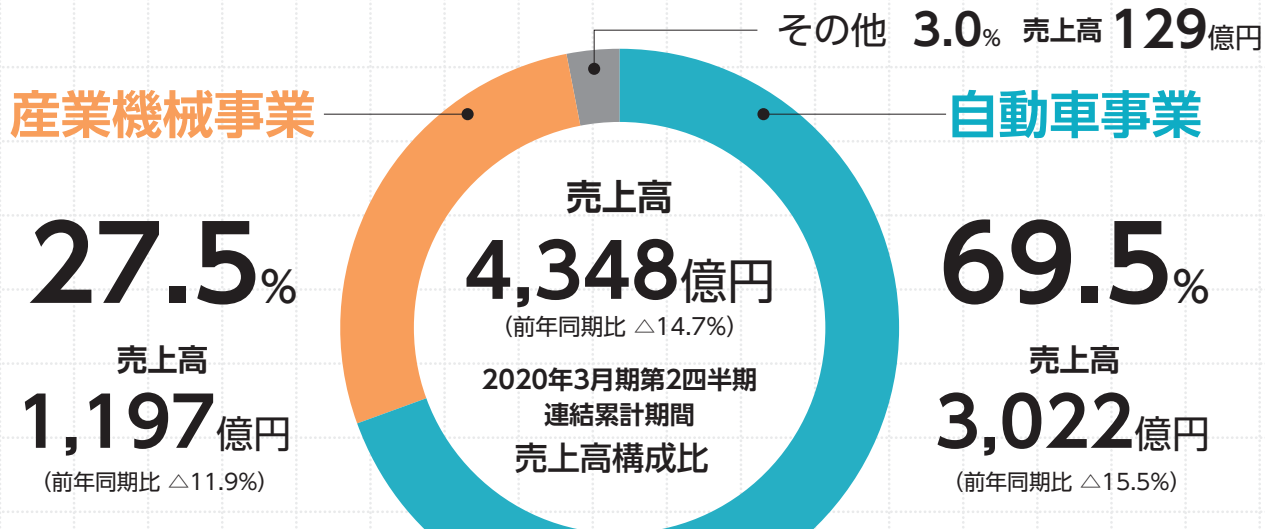


SDGsの7つの重要課題と取り組み宣言

	NSK取り組み宣言	SDGs重要課題	
1	イノベーションによって安全・安心な社会インフラ形成に貢献します。		
2	事業活動における環境負荷を低減し気候変動対策に貢献します。		
3	環境貢献型製品でムダのない社会づくり、資源の再利用、地球環境負荷の低減に貢献します。		
4	多様性に富んだ組織で社員の働きがいと価値創造を両立します。		
5	マルチステークホルダーパートナーシップで対話を深め、SDGsへの取り組み効果を高めます。		

NSK at a glance

一目でわかる決算情報



あらゆる産業で
活躍するNSK製品

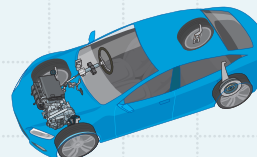


高剛性薄肉
アンギュラ玉軸受



風力発電機主軸用
大型自動調心ころ軸受

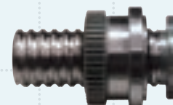
自動車の「走る・曲がる・止まる」を
支えるNSK製品



ボール式ワンウェイ
クラッチ



ニードル軸受



自動ブレーキ用
ボールねじ



コラムタイプ電動パワーステアリング

決算のポイント

米中摩擦の長期化により世界経済の不透明感と低迷継続。

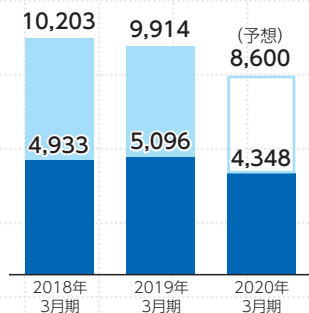
■ 産業機械事業：工作機械や半導体製造装置など生産財向けの需要低迷。インフラ関連（風力・鉄道）は好調に推移。

■ 自動車事業：グローバルで自動車生産台数が減少。電動パワーステアリングはモデルチェンジの影響でダウン。

売上高

(単位:億円)

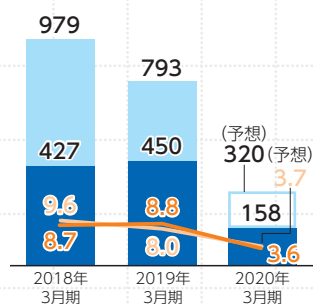
■ 第2四半期連結累計期間
■ 通期



営業利益／営業利益率

(単位:億円)
(単位:%)

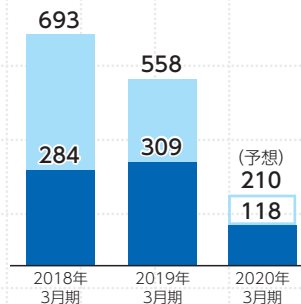
■ 営業利益
■ 第2四半期連結累計期間 ■ 通期
■ 営業利益率
■ 第2四半期連結累計期間 ■ 通期



四半期(当期)利益(親会社の所有者)

(単位:億円)

■ 第2四半期連結累計期間
■ 通期



1株当たり配当金

(単位:円)

	2018年3月期	2019年3月期	2020年3月期
中間	19.00	20.00	20.00
期末	21.00	20.00	(予想) 20.00
合計	40.00	40.00	(予想) 40.00

TOPICS 「走行しながらワイヤレス給電可能なインホイールモータ」の開発に成功

地球温暖化によりCO₂削減が求められる中、電気自動車は有力な解決手段として注目されています。課題の1つに航続距離の延長が求められており、その課題に当社は、東京大学や他の企業と共同で、道路からインホイールモータに走行中に直接給電できる「第3世代走行中ワイヤレス給電インホイールモータ」の開発に成功しました。充電回数の削減やモータ性能の向上により、電気自動車の利便性が飛躍的に高まると同時に、持続可能な社会の実現に貢献できると期待されています。

インバータと受電回路





誌上工場見学

藤沢工場桐原棟

藤沢工場桐原棟は、2017年10月に増築され、最新鋭の設備を備えた生産ラインが稼働しています。風力や鉄道車両向けなど様々な種類の大形軸受を効率的に生産している藤沢工場桐原棟をご紹介します。

効率の良い生産で、 生産性3倍を実現

桐原棟の最大の特徴は、NSKで一番大きな建屋であることを活かし、軸受を一貫生産できることです。熱処理から研削、組立、検査、梱包、出荷までを同じ建屋で完成させます。ハイブリッドラインと呼ばれる新開発した生産ラインでは、高機能ロボットの活用、加工工程の統合や新工法、熱処理から加工、検査までの搬送時間を短縮することで、生産性3倍を実現しています。



無人搬送車(AGV)

桐原棟で使用している約50cmのAGVは、最大500kgまで運ぶことが可能です。AGVは工程間の搬送自動化による、生産の効率向上に加えて、作業者の負担も軽減しています。



環境に配慮した 事業活動

桐原棟では、食堂の屋根に太陽光発電パネルを設置しているほか、製品づくりで使用する水を一括で管理して再利用しています。今後も、社会の一員として、環境にやさしい事業活動を行っていきます。



株主 ひろば

株主様との
コミュニケーション

株主様からいただいたご質問に
お答えします。

Q 工場の自動化について
教えてください。

ANSWER

例えば、藤沢工場桐原棟では、高度な生産性を実現するスマートファクトリー化を目指しています。最新の自動化生産設備や無人搬送車などを活用し、従来難しいとされてきた大形軸受の生産の自動化を可能にすることで生産性や品質の大幅な向上、さらには納期短縮を実現しています。今後は、IoTを活用して生産状況をリアルタイムで管理し、更なる効率向上を追求していきます。

Q グローバル採用について
教えてください。

ANSWER

当社は、現在、世界30の国と地域で事業を展開しており、積極的に外国籍社員を採用しています。専門教育を修了した優秀な人材を国内外で獲得し、体系的な教育を行っています。世界各地のお客様の様々な市場ニーズとグローバルな事業展開に迅速にきめ細かく対応することで、お客様の満足度を高め、更なる成長を目指します。



国内外のエンジニアの
トレーニング施設
(神奈川県藤沢市)

Q 広告・広報活動について
教えてください。

ANSWER

部品メーカーである当社としても、企業イメージ向上の必要性を感じています。このため、ビジネス層向け新聞などの製品や事業の記事に加えて、WebサイトやSNSなどを活用して一般層での知名度を向上する広告を効率的に進めています。今後も広く企業イメージを向上することで、円滑な事業運営と企業価値の最大化につなげていきます。



東海道新幹線車内広告(2019年11月上旬掲載)



藤沢工場桐原棟の株主様向け見学会を開催しました。
(2018年11月)

四半期連結財政状態計算書

単位：百万円

科目	2020年3月期 第2四半期 連結会計期間 (2019年9月30日)	2019年3月期 連結会計年度 (2019年3月31日)
資産		
流動資産	481,326	507,618
現金及び現金同等物	132,560	129,965
売上債権及びその他の債権	171,777	195,288
棚卸資産	157,574	159,517
その他の流動資産	19,414	22,847
非流動資産	583,542	578,837
有形固定資産	380,542	378,333
無形資産	19,198	19,550
その他の非流動資産	183,801	180,953
資産合計	1,064,869	1,086,456
負債		
流動負債	234,074	285,411
仕入債務及びその他の債務	99,744	130,333
その他の金融負債	80,397	101,145
その他の流動負債	53,932	53,932
非流動負債	284,989	240,643
金融負債	220,770	175,467
退職給付に係る負債	19,203	19,530
その他の非流動負債	45,014	45,646
負債合計	519,063	526,055
資本		
資本金	67,176	67,176
資本剰余金	80,468	80,426
利益剰余金	404,443	400,720
自己株式	△ 37,658	△ 37,779
その他の資本の構成要素	10,196	26,131
親会社の所有者に帰属する 持分合計	524,626	536,676
非支配持分	21,178	23,724
資本合計	545,805	560,400
負債及び資本合計	1,064,869	1,086,456

四半期連結損益計算書

単位：百万円

科目	2020年3月期 第2四半期 連結累計期間 (2019年4月1日 ～2019年9月30日)	2019年3月期 第2四半期 連結累計期間 (2018年4月1日 ～2018年9月30日)
売上高	434,820	509,576
売上原価	351,539	394,745
売上総利益	83,281	114,831
販売費及び一般管理費	67,785	71,174
持分法による投資利益	1,231	2,727
その他の営業費用	961	1,419
営業利益	15,765	44,964
金融収益	1,216	1,356
金融費用	1,429	1,217
税引前四半期利益	15,552	45,104
法人所得税費用	3,231	12,479
四半期利益	12,320	32,624
(四半期利益の帰属)		
親会社の所有者	11,816	30,941
非支配持分	504	1,683

四半期連結キャッシュ・フロー計算書

単位：百万円

科目	2020年3月期 第2四半期 連結累計期間 (2019年4月1日 ～2019年9月30日)	2019年3月期 第2四半期 連結累計期間 (2018年4月1日 ～2018年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	40,232	49,085
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 26,637	△ 32,919
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 7,611	△ 26,062
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 3,388	△ 307
現金及び現金同等物の増減額(△：減少)	2,595	△ 10,203
現金及び現金同等物の期首残高	129,965	131,283
現金及び現金同等物の四半期末残高	132,560	121,079

※四半期連結財務諸表は、国際会計基準(IFRS)に基づいて作成しています。

会社概要

会社名	日本精工株式会社 (NSK Ltd.)
本社	東京都品川区大崎一丁目6番3号
設立	1916年 (大正5年) 11月8日
資本金	672億円
従業員数	8,063名 (NSKグループ 31,387名)
主な事業内容	産業機械軸受、精密機器関連製品、自動車軸受、自動車部品の製造及び販売

役員

取締役(代表執行役社長)	内山 俊弘	取締役 ^{※1}	池田 輝彦
取締役(代表執行役副社長)	野上 宰門	取締役 ^{※1}	馬田 一
取締役(代表執行役専務)	鈴木 茂幸	取締役 ^{※1}	望月 明美
取締役(代表執行役専務)	神尾 泰宏	取締役 ^{※1}	岩本 敏男
取締役(代表執行役専務)	市井 明俊	取締役 ^{※1}	藤田 能孝
取締役(執行役専務)	後藤 伸夫	※1 社外取締役	
取締役	榎本 俊彦		



執行役専務	麓 正忠	執行役	山之内 敬
執行役常務	井上 浩二	執行役	石川 進
執行役常務	宮崎 裕也	執行役	郁 国平
執行役常務	工藤アノ・フカシ	執行役	阿知波博也
執行役常務	小林 克規	執行役	鈴木 啓太
執行役常務	篠本 正美	執行役	近江 勇人
執行役常務	織戸 宏昌	執行役	村田 珠美
執行役常務	山名 賢一	執行役	継本 浩之
執行役常務	吉清 知之	執行役	ラニ・ヘイグッド
執行役常務	三田村宣晶	執行役	ジャン・ジャック・カチエ
執行役常務	新子 右矢	執行役	田所 久和
執行役常務	御地合英季	執行役	大竹 成人
執行役常務	明石 邦彦	執行役	武村 浩道
執行役	高山 優	執行役	早田 龍史
執行役	伊集院誠司	執行役 ^{※2}	ウルリッヒ・ナス

※2 10月1日付就任

株式の状況

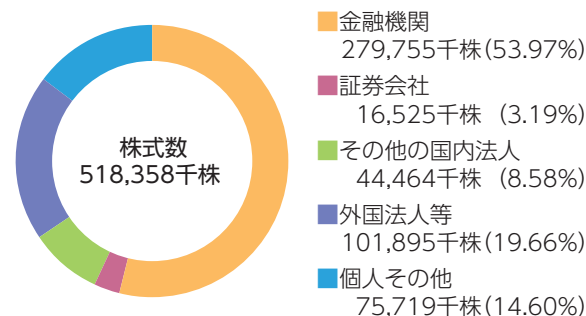
発行可能株式総数	1,700,000,000株
発行済株式総数	551,268,104株
株主数	46,588名

大株主

株主名	所有株式数 (千株)	持株比率 (%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	47,203	9.11
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	33,357	6.44
明治安田生命保険相互会社	27,626	5.33
日本生命保険相互会社	27,543	5.31
富国生命保険相互会社	22,400	4.32
株式会社みずほ銀行	18,211	3.51
日本マスタートラスト信託銀行株式会社トヨタ自動車口	10,709	2.07
トヨタ自動車株式会社	10,000	1.93
株式会社三菱UFJ銀行	8,675	1.67
日本精工取引先持株会	8,592	1.66

(注) 持株比率は、自己株式(32,909千株)を控除して計算しています。

所有者別分布状況



株主メモ

事業年度	4月1日～翌年3月31日	同取次所	みずほ信託銀行株式会社 本店及び全国各支店 みずほ証券株式会社 本店及び全国各支店
定時株主総会	6月	公告方法	電子公告にて行います。 https://www.nsk.com/jp/ 但し、事故その他やむを得ない事由によって電子公告をすることができない場合は、東京都において発行する日本経済新聞に掲載する方法により行います。
配当の基準日	期末配当金 3月31日 中間配当金 9月30日		
株主名簿管理人	〒103-8670 東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社		
特別口座の 口座管理機関	みずほ信託銀行株式会社	1.住所変更等については、株主様の口座のある証券会社にお申出ください。なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関であるみずほ信託銀行にお申出ください。	
郵便物送付先 電話お問い合わせ先	〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部 電話センター 0120-288-324 (フリーダイヤル)	2.未受領の配当金については、みずほ信託銀行及びみずほ銀行の本店及び全国各支店でお支払いします。	



NSKホームページの投資家情報サイトのご案内

NSKは「投資家情報」サイトに社長メッセージや決算説明資料、財務・業績情報、株式情報などを掲載しています。また、株主の皆様により深くNSKのことをご理解頂くために開示情報の内容充実に努めています。

➡ 投資家情報 <https://www.nsk.com/jp/investors/>

主な内容

- 社長メッセージ
- 経営方針
- IR資料室
- 財務・業績情報
- 個人投資家の皆さまへ
- 株式・格付情報
- IRカレンダー
- IRに関するお問い合わせ

外部機関からの 評価(SRI/ESG)

財務面だけではなく、環境・社会面での高い評価を併せ持つ企業は、長期的に持続可能な成長を期待される企業と認知され、SRI (= Socially Responsible Investment 社会的責任投資)の対象としてだけではなく、幅広い投資家からますます重要視されています。NSKは、世界的にその信頼性が認められた以下の代表的なSRI/ESGインデックスに組み入れられています。(2019年10月現在)



<https://www.robecosam.com/csa/indices/djsi-index-family.html>



FTSE4Good

<https://www.ftserussell.com/ja/products/indices/ftse4good>



FTSE Blossom
Japan

<https://www.ftserussell.com/ja/products/indices/blossom-japan>



<http://www.vigeo-eiris.com/>



<https://www.issgovernance.com/esg/ratings/corporate-rating/>



<https://www.sjnk-am.co.jp/>

NSK

日本精工株式会社
ホームページアドレス
➡ <https://www.nsk.com/jp/>

UD
FONT

